

もったいないが

ごみ減量の第一歩

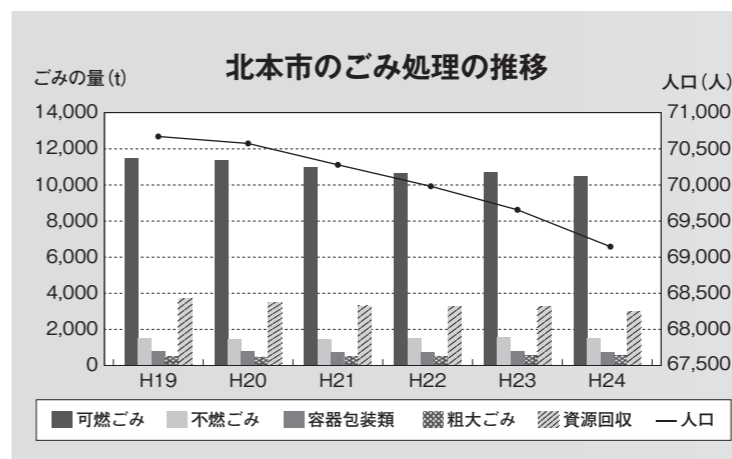


抜群のチームワークで作業する北本2丁目の皆さん

私たちの生活とは切り離すことができない「ごみ」。理想は、ごみが出ない生活ですが、実現は難しいことです。しかし、私たちの意識と工夫で、ごみを減らすことはできます。「もったいない」が、ごみ減量の第一歩です。

近年では、プラスチック等を原料として再生利用するマテリアルリサイクル、ごみを焼却する際に発生する熱エネルギーを回収・利用し、発電などをするサーマルリサイクルといったリサイクル技術の革新が進んでいます。少しずつ、環境に負荷をかけない循環型社会が「再利用できないか」

「もったいない」を意識し、日々の暮らしのなかでできるごみ減量に取り組んでみましょう。



北本市は、人口が平成17年をピークに減少傾向にあり、ごみの総排出量については、平成14年をピークに減少傾向にあります。

【毎日家庭から出るごみは、どうなっているのか】

北本市のごみ処理にかかる年間費用は約6億3,000万円。主な内訳は、もやせるごみ、もやせないごみ、容器包装類、資源回収、粗大ごみなどの収集運搬に約2億8,000万円、処理費用としては、もやせるごみ・粗大ごみが約2億3,000万円、もやせないごみが約6,600万円、容器包装類が約3,000万円となっています。

また、歳入として、粗大ごみの処理手数料約1,300万円、資源回収物売りさばき金約1,700万円、容器包装類の売りさばき金約180万円となっています。

もやせるごみ・粗大ごみについては、吉見町にある埼玉中部環境保全組合において処理されています。もやせるごみは焼却処理、粗大ごみは破碎処理され、資源化物を取り除き、残りは焼却処理されます。焼却して出た灰は、すべてセメント原料として使用さ

れていますので、埋め立ては行っていません。

もやせないごみは、事業者により加須市で選別され資源化物が取り除かれます。その後、残りのごみは、北海道室蘭市に運ばれ、焼却処理されます。焼却して出た灰は、もやせるごみと同様にセメントの原料として使用され、埋め立ては行っていません。

容器包装類は、事業者により栃木県下野市に運ばれ、選別されます。きれいなものはリサイクルされ、汚れたもの

については、鹿沼市で焼却処理されています。焼却して出た残りカスについては、群馬県草津市にある最終処分場に埋め立てられています。平成24年度の埋め立て量は、25トンとなっています。

本来、北本市から排出された廃棄物は、北本市内で処理しなければならぬわけですが、処理が困難な状況にあるため、他の自治体をお願いせざるを得ないのが実情です。他の自治体をお願いするということは、それだけ経費も必要になってきますし、何より、北本市のごみが、他の自治体で処理されているという事実を認識し、少しでもごみを減らすよう心がけましょう。

北本市でごみ処理にかかる年間費用

約6億3,000万円



ごみ減量 一人ひとりの自覚から

埼玉中部環境センターのごみの処理量は、平成13年度をピークに減少しています。これは、国の施策もありますが、住民の皆さんの分別、減量へのご協力によるものです。センターは30年目を迎えています。ごみの処理量の減少は、処理費用の削減やごみ

処理施設への負担軽減、そして、環境負荷の軽減にもつながりますので、今後も、ごみの分別と減量にご協力をお願いします。

[埼玉中部環境保全組合施設課] 杉田 孝之 さん



ごみ減量への
取組み
①

捨てればごみ、活かせば資源

「分別する」こと



きれいに清掃されている集積所にはすでにきちんと分別された段ボールや雑誌、洋服などの布類が並んでいます。

「捨てればごみ、活かせば資源」ごみ減量の効果をあげるには、ごみを分別し、資源化することです。北本ハイデンス自治会の資源回収の現場を取材しました。

意識向上でごみ減量

北本ハイデンスの敷地内は、きれいに清掃され、手入れの行き届いた花壇には、花が咲いています。

「先日、環境美化運動の呼び掛けに17人が集まり、伸びた雑草を刈って汗を流しました。ハイデンスに住んでいる方々は、環境への意識は高いと思います。」こう話すのは、ハイデンス自治会の自治会長を務める平井善博さん。北本ハイデンス自治管理組合の理事長もされています。

組合は、六つの委員会を設け、地域の課題を共有・解決してきました。そのなかの一つ、自治委員会(委員長 荒木真澄さん、委員 飯島克子さん・大場悦子さん)は、ごみ関係を担当し、資源回収時の見回りや、住民の皆さんにごみ減量の啓発活動を行っています。また、敷地内に4か所ある集積所に「分別収集家庭ごみ・資源類の出し方」看板を設置して周知を図るとともに、時間内にごみを出すことができない人のための

支援制度を創設するなど、ごみ減量への取り組みを推進しています。こうした自治委員会の地道な取り組みは、着実に住民の皆さんの意識向上につながっています。

北本ハイデンス内にある農園では、よく乾かし粉碎した卵の殻を住民の皆さんから集め、土壌改良剤として活用しています。また、美化運動で出た草をたい肥化して農園や花壇で使うなど地域ぐるみでごみ減量に取り組んでいます。

「普段からきれいにしておくことが大切。そうすれば、きれいにしなくてはいけないという気持ちになる。協力していただいてありがとうございます。」と自治委員会の皆さんは口を揃えます。



北本ハイデンス 自治会の皆さん
(左から平井善博さん、荒木真澄さん、大場悦子さん、飯島克子さん)

ごみ減量への
取組み
②

捨てずに、再資源化

「捨てない」こと

「食べ残しをしない」「水切りを徹底することでごみの量は減らせますが、さらに、生ごみを有効に活用すれば、ごみとして出す必要がなくなります。」「捨てない」はごみ減量の基本です。市内の生ごみリサイクル市民農園で生ごみをたい肥化して野菜作りをしている小林五郎さんにお話を伺いました。

リサイクルが人をつなぐ

「市民農園で野菜を作り始めたのは10年前。北本市ごみ減量等推進市民会議が管理運営する生ごみリサイクル市民農園との出会いがきっかけです。」

小林五郎さんは、家庭から出る生ごみとEM(有用微生物群)ポカシで作った肥料を使い、野菜や草花を育てています。

現在、きゅうりやなす、オクラ、キャベツの4種類の野菜を育てていますが、通り沿いには草花を植えて、道行く人の目を楽しませています。

「生ごみをたい肥化して使用することで、ごみ減量につながります。作った野菜を近所にも配っています。が、おもしろいと言ってもらえることが一番うれしい。」とやさしい笑顔がとても印象的です。

小林さんは、これまで培ったごみのたい肥化や野菜栽培のノウハウを市民農園の利用者だけではなく、講習会や研修会の講師としても伝えていきます。

「地域とのつながりがだんだん希薄になっていきますが、市民農園での野菜作りがきっかけで多くの人と知り合うことができました。」と話す小林さん。

捨ててしまうにはもったいない。生ごみのリサイクルから始まった市民農園での野菜作りは、野菜だけではなく地域の皆さんとのつながりも育んでいます。



小林五郎さん



生ごみ処理容器(コンポスト)で、生ごみとEM菌を混ぜて発酵させたたい肥を使い、野菜の栽培をしています。



林清司さん

できることから無理なく減量

買い過ぎない、残さず食べる、生ごみはよく水切りしてから出す。ペットボトルはキャップやラベルを取って洗ってから出す。少しの心がけが大きなごみ減量へとつながります。

**生ごみ処理機で
ごみ減量**

微生物を利用した生ごみ処理機で生ごみを減らしています。また、米のとぎ汁や紅茶の出がらしは庭の花や木の肥料として、着られなくなった衣類はオリジナルの織物の材料に再利用しています。「やらねばならぬ」ではなく、「楽しく無理なく」続けることが大切です。

西川 裕美さん

**廃材をおもちゃに
リサイクル**

家庭でよく出る段ボールや紙パック、ペットボトルなど、廃材を使って楽しくおもちゃ作り。丈夫で長持ち、子どもがぶつかっても安心です。

福田 裕美さん

**おしゃれに楽しく
エコライフ**

使い捨てのものは便利だけど、もったいないと感じていました。使い捨ての習慣を見直したくて、外出するときは、いつもマイはし・マイフォークを持参しています。

前田 杏理さん **中村 亜衣さん**

**マイバックで
ごみも無駄も削減**

買い物のたびに受け取っていたレジ袋が家に溢れていました。捨てるにも折りたたんで入れたり、ときには2回に分けて運んだり、不要なレジ袋には無駄な労力や時間もかかっていました。一つの無駄が多くの無駄を生み出しています。今ではマイバック持参が当たり前です。

新井 政子さん

**生ごみのたい肥作りで
一石三鳥**

不要になったプラスチック製のふた付き容器を活用し、生ごみのたい肥を作っています。昨年の夏は、たい肥を使ってゴーヤ作りに挑戦。ごみ減量、ゴーヤの収穫、ゴーヤの緑のカーテンで節電と、まさに一石三鳥。ぜひ、皆さんも挑戦してみてください。

梶山 寛さん

**好きな飲み物を
マイボトルで**

マイボトルを使うと、資源が節約できるだけでなく、お金の節約にもなります。好きな飲み物を、いつでもお気に入りのボトルやカップで楽しんでいます。

福島 みゆきさん

**紙パックを使った
簡単リサイクル**

いすや踏み台、小物入れ、扇子、貯金箱など、紙パックを使って家庭で簡単リサイクル。毎年、夏休みの子どもの自由研究には、廃材を使った作品を作り、子どもと楽しみながらエコについて学んでいます。

阿部 真由美さん

**思い出をつないで
ごみ減量**

私が使っていたベビーベッドとベビースイスを、現在、子どもが使っています。物を大切に使い、繰り返し長く使うこと、それだけでもごみの減量につながると思います。

林 菜摘さん **林 拓真くん**

**段ボールコンポストで
生ごみ処理**

毎日台所から出る「生ごみ」。もやせるごみの袋にポイ！これでも良いのかと考えている方も多いのではないのでしょうか。段ボール箱に腐葉土を入れ、その中に生ごみを混ぜて分解。やってみたい方は杉田(☎591-1467)まで。

杉田 仙太郎さん

ごみ減量への取組み ③ 明日からでもできる「マイエコ運動」

**ごみを増やさないために
無駄に買わない、もらわない。**



北本市ごみ減量等推進市民会議は、ごみの減量化や再資源化の促進、市民の皆さんのごみに対する意識改革の運動を進めているボランティア団体です。廃食油も捨てればごみですが、集めれば資源として再利用できます。家庭から出る米のとぎ汁と廃食油が、EM菌の力で石けんに生まれ変わります。同会議のリサイクル委員会は、年4回石けん作り講習会を開催しています。身近なところから環境を考えるエコ活動に、ぜひ参加してください。

**台所からごみ減量！
廃食油から石けん作り**

北本市ごみ減量等推進市民会議



**きくまつり
フリーマーケット**

時 11月9日(土)・10日(日)
10:00~15:00
場 総合公園
(きくまつり会場内)
問 総合公園管理事務所
(☎592-4050)

フリーマーケットの開催
不用品を中心とした市民参加のガレージセールです。不用になった物を再使用。資源を有効に活用するのも、ごみ減量への大事な一歩です。ぜひご来場ください。

**他にもあります！
ごみ減量の取組み**

次の世代へ きれいな 北本を残す

限りある資源を守り、地球や環境にやさしい時代をつくることは、今、私たちに課せられた使命です。私たちが、ごみの減量のために努力するのは、誰のためでもなく、私たちが未来の子どものためなのです。



くらし安全課
廃棄物・リサイクル担当
深谷 俊行 主査

ごみの分別は確かに面倒なものです。しかし、私たちは、今までと同じような便利さや効率を優先する生き方から、たとえ手間がかかっても、環境にやさしい行動をより重視しなければならぬ時代に生きています。

江戸時代、簡単にはごみを出さない社会がありました。「ものを大切に最後まで使いつくす」という考え方が、リサイクル社会を作り出していたのです。社会や経済状況、生活様式が全く

違う現代において、そのなかから直接役に立つことを見出すことは難しいことかもしれませんが、私たちがごみ減量を考えるとき、昔の生活の知恵から学ぶところは数多くあるはずです。

まずは私たち一人ひとりの努力が必要で、分別の徹底や、ごみ減量の実践を、まずはできることから始め、「面倒くさい」から「もったいない」に気持ちの切り替える。それが環境に負荷をかけない循環型社会の形成につながります。

新ごみ処理施設の建設および広域化

これまでの経過

もやせるごみと粗大ごみの処理施設(埼玉中部環境センター)は昭和59年に建設され、現在まで約29年が経過し、老朽化が懸念されています。

このようなことから、埼玉中部環境保全組合を構成する北本市、鴻巣市、吉見町の2市1町を中心に最大11市町村での広域化の枠組みを検討してきました。

その結果、平成24年9月に新たなごみ処理施設の建設について、埼玉中部環境保全組合の2市1町を中心とした広域化ではなく、新しい一部事務組合をつくって進めることになりました。

今後、北本市は、鴻巣市・行田市とともに新ごみ処理施設の建設を進めることとなります。

なお、現在の埼玉中部環境保全組合については、現施設が存続する限り、2市1町で運営していくことが確認されています。

最近の状況

5月7日 北本市・鴻巣市・行田市で、ごみ処理広域化の推進に関する基本合意書を締結

北本市、鴻巣市、行田市の共同で一部事務組合を設立し、ごみ処理を行うことや、新たなごみ処理施設の建設地を鴻巣市内とする等の基本的事項について合意書を交わしました。

7月5日 第1回行田市・鴻巣市・北本市ごみ処理広域化協議会を開催

3市の市長を委員とする協議会が立ち上がり、会長に鴻巣市長が選出され、協議会の事業計画等について協議が行われました。今後は、同協議会において、ごみの共同処理の推進に係る基本的な事項について協議を行う予定です。